

【1】 高等部の基本的な考えと教育課程について

高等部の生徒は、身体的変化も安定し精神的に落ち着いてくると共に、生活経験の蓄積による力が伸びてくる。また、できることとできないことが明確になってくる時期であるといえる。

できることとできないことを生徒自身が認識した上で、みずから進んでやろうとする自主的な態度や習慣を培い、社会参加をめざして基礎的な働く力を育てることをねらいたいと考えた。即ち、社会とは何かが分かり、自己表現をするということはどんなことかが分かり、努力した結果はどうか分かり、人からどう見られているかが分かる認識能力を育てることが重要であると考えた。

しかし、できない部分の認識、いわゆる障害認識については、生徒自身が障害を前向きに捉えられるようにとの思いから、教育目標を「すすんで学ぶ気力にあふれる子」とした。

そしてこの目標を達成することにより、以下のような卒業後の豊かな生活を保障したいと考えた。

豊かな生活	<ul style="list-style-type: none"> ・目的とする活動があること ・健康で文化的な生活があること ・仲間がいること ・前向きな心を持つこと
-------	---

勿論、高等部を卒業した段階で障害そのものが軽減するわけではないため、何らかの支援を受けながら社会生活を送らざるを得ない。が、しかし、同じ支援を受けるにしても、ただ受身的に支援を待つだけでなく、支援者に働きかける主体性を持つことがより重要であると考えた。

よって、社会的自立を図るため、認識能力の障害を考慮した上での自主性を育てることに重点をおいた教育課程を編成し、具体的には、言語、動作を含む自己表現力を高めると共に、自己客観視をめざした自己内対話の力を高めたいと考えた。具体的な指導の重点は下記の通りである。

青年期の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験の蓄積による落ち着きにより集中的指導、系統的な指導が可能になる。 ・高校生であるという自己意識の変化による学習に対する意欲が高まる。 ・身体的成熟に伴い、社会に結びついた大人の素材での教育活動ができる。 ・社会への関心が高くなり、興味の対象が広がる。
--------	---



指導の重点	<p>生活年齢を意識した指導……障害だけに目を向けるのではなく、高校生として一人ひとりの人格を尊重して指導を行う。</p> <p>待つ姿勢を大切にした指導……生徒の思いをじっくりと引き出し、共に学習をしようとする態度で指導を行う。</p> <p>生徒が主役の指導……生徒自身が障害を前向きに捉え、障害を認識したうえで学習に取り組むよう指導する。</p> <p>より具体的な内容……学習した内容が、生活の中で行動化されるような学習形態を中心として、指導する。</p> <p>段階を踏んだ継続的な指導……生活の問題解決方法を獲得させる学習を継続して行う。</p> <p>見通しを持たせる指導……目的意識を持って、学習に取り組む姿勢を大事にした指導を行う。</p>
-------	---

〔1〕 高等部の教育課程編成上の特徴と留意点

高等部では、障害認識をした上で社会的自立をめざし、より積極的に学ぼうとする気力にあふれる子を育成するために、生活一般、課題学習、職業を中核とした教育過程を組んでいる。

本年度は、生活年齢を意識した指導に重点を置き生活一般、課題学習を学年単位で学習することとした。生活一般は、将来、健康で文化的な生活をするために生活に根ざした内容を取り上げ、より具体的な問題解決に取り組む時間であり、特に実体験を大切にされた校外学習が組めることを意図して、3時間連続の時間を設定している。

課題学習は、基本的には生活一般の単元と関連した内容を取り上げ、指導形態としては生徒の認識能力の特性や発達段階によって3グループに分け、担任プラス担任外の3名で指導をすることとした。校外学習でねらう社会との関わりの中でも、特にコミュニケーションの学習において、同質小グループの学習形態の効果を期待した。また、ねらいによっては指導を学習時間内に限定しないで、朝の活動の時間や放課後の時間を利用し、個別の校外学習を行っても良いとし、個別に学習内容の定着を図った。

週8時間の職業は、農耕園芸、木工、活版印刷、陶芸、紙工（受注）の5コースとし、作業態度の育成はもとより、生徒が主体的に働くことに取り組む姿勢を大切にしたいと考えた。

そこで、連続3時間の職業を設定し、生徒が作業の見通しを持つために、各職業コースとも、学習時間の初めに目標を発表したり、身だしなみに関する評価を生徒自身が行ったり、終わりに反省をして、課題を発表したりする時間を保障した。

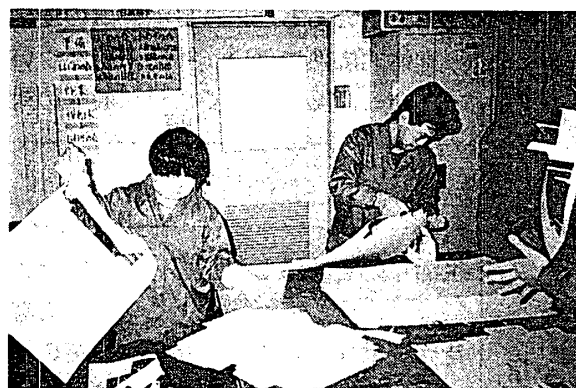
また、生徒のやる気をじっくりと待つ姿勢を大切にするため、指導者が待ちの時間が十分取れることを意図し、3時間連続の時間を確保した。コース制職業の他に校内職業実習を次のように計画し、集中して長時間作業に取り組むことにより、働くリズムの定着を図った。

4月－1・2年生の実態把握（紙工）

5月－3年生の現場実習前の訓練（職業コース別）

表1 週時表

曜日 時間	月	火	水	木	金	土
8:40	登校・朝の生活					
9:05	ホーム ルーム	朝の活動(朝の運動・課題別養訓)				生活一般
9:45	生活一般	職業	生活一般	生活一般	職業	生活一般
10:30	長 休 息					
10:45	課題学習	職業	生活一般	課題学習	職業	生活一般
11:25	課題学習	職業	生活一般	課題学習	職業	着替え ホームルーム
12:10	給 食					下 校
12:45	洗面・休憩					
13:10	掃 除	掃 除				
13:30	音A/ 体B	クラブ	生活一般 (奉仕)	職業	音B/ 体A	
14:10	音B/ 体A	委員会	着替え ホームルーム	職業	音A/ 体B	
14:30			下 校			
14:55	着 替 え		着 替 え			
15:10	ホームルーム		ホームルーム			
15:30	下 校		下 校			



校内職業実習の様子

10月－全学年の現場実習前の訓練（紙工、電気部品、ボールペン解体、組み立て）

12月－全学年による年賀状印刷（活版印刷、カット印刷、多色刷り印刷）

2月－3年生の卒業前訓練（紙工）

1・2年生の学校文集の制作

なお、職業や校内職業実習で培われた力を作業所や事業所で試行し、今後の課題をより具体的にす
る場として、3年生は年間5週間、1・2年生は年間2週間の現場実習を実施している。

〔2〕 研究場面でのコミュニケーションの取り組み

(1) 生活一般

- 現在の生活、将来の生活でのコミュニケーションの課題を教材とする。
- 生徒自身から課題を引き出し、生活場面で学習し検証する。
- 学習場面を学校内に限定せず、校外で多様な人とのコミュニケーションの場を設定する。

(2) 課題学習

- 個別の課題を明確にし、個別メニューを作成し、コミュニケーションの力を高める。
- 生活一般の学習場面と関連させ、コミュニケーションの基礎的な力を育成する。
- コミュニケーションの基礎的な部分を継続して指導し、定着を図る。

(3) コース別職業

- 返事、報告、質問の応答を繰り返し学習する場面を設定する。
- 目標、反省を発表する場面を設定し、自己表現力を高める。

(4) 日常生活の指導

- 意図的に応答が必要な場面を設定する。
- 家庭との連携による継続的な指導を行う。

〔3〕 コミュニケーション指導の基本的な考え方

(1) 生徒の表現を可能な限り受容し、個性を大切にす

型にはまった表現方法だけでなく、一人ひとりの生活の背景がうかがえるような表現も大切にして
豊かな個性を引き出す。

(2) 豊かな人間関係を大切にす

日常会話や、挨拶だけの人間関係ではなく、自分の思いを表現したり、他者の思いを理解したりし
て、人間に広がりを持つような豊かな人間関係を持つ。

(3) 言葉以外の手段の表現方法も大切にす

言葉が出なくても要求が身ぶりでき、他者にそれが通じることも大切なコミュニケーションの方
法であると捉え、思いが自然に体の動きとなって現れることを大切にしたい。

(4) 誠意が伝わる表現を大切にす

非言語段階であっても、表現方法が未熟であっても、その動作や言葉に誠意が感じられる表現を大
切にしたい。